

**KAMAR HEATMOUNT DETECTORS**

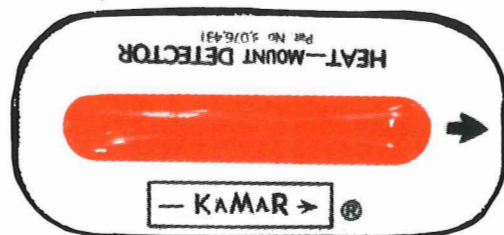
# カーマー ヒート ディテクター

(米カーマー社製発情牛発見パット)



白いカーマー ヒート ディテクターが  
赤く変わるので発情牛が一目で判る——

発見率 **95%以上**



カーマー ヒート ディテクターは 確実に牛の発情を知らせてくれますから、時機を逸せず人工受精ができ、受胎率が高まり従って酪農収益増大に直結します。

発情した牛に他の牛がのり上がる習性を利用し、牛の背中に **カーマー ヒート ディテクター** を貼っておくと、のり上がった牛の重みでカプセルが破れて中の赤色染料が **カーマー ヒート ディテクター** を赤く染めますから、遠くからでもはっきりと、発情を知ることができます。



1. 牛を保定して、腰骨の付近をきれいにする。
2. 裏面を上にしてカーマー ヒート ディテクターをアプリーケーターにのせて、接着剤を塗る。
3. ガイドを牛の腰にあて、貼り付け位置を決める。
4. カーマー ヒート ディテクターの矢印を牛の首の方向に向けしっかり牛の背に貼り付ける。

### セット内容

カーマー ヒート ディテクター	50枚
接着剤(チューブ入り)	2本
アプリーケーター	1個
接着剤へら	1個
貼付け位置ガイド	1枚

発情日に近づいた牛に貼って朝晩2回変色を見るだけで、発情日を確実に知ることができます。

WORLDWIDE SIRE 日本総代理店



**株式会社トーチク**

■ 本社

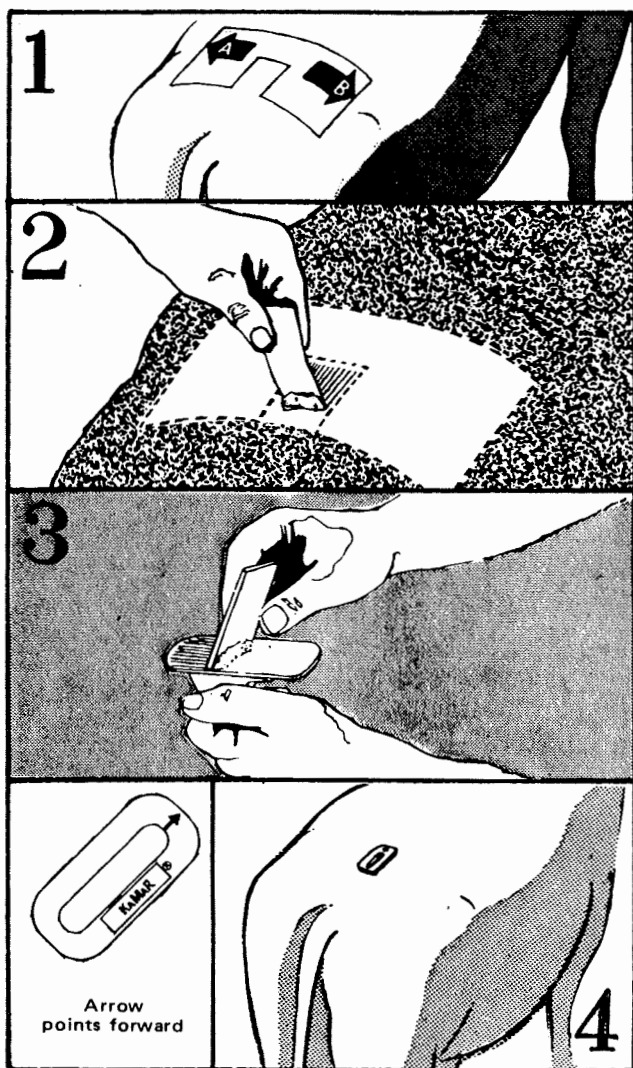
〒082-0005 北海道河西郡芽室町東芽室基線3番1  
TEL 0155-61-2221 / FAX 0155-61-2212

■ 茨城営業所

〒301-0017 茨城県龍ヶ崎市姫宮町139番地  
TEL 0297-60-0307 / FAX 0297-60-0308

代理店

# カーマー ヒート ディテクターの使い方



1. 先ず牛を柵や枠で保定して下さい。
2. 牛の背中の腰骨のあたりをきれいにします。ブラシで汚れや脱け毛をよくこすり取って下さい。但し、バリカンで毛を刈る必要はありません。
3. カーマーヒートディテクターの正しい貼り付け位置を決めるガイドがセットに付属しております。ガイドのA・Bマークを左右腰骨の一番高いところに合わせます。(図①参照)  
ガイドの切欠きの位置が体重 360 kg ぐらいの牛に対する正しい貼り付け位置です。  
体重が重くなるにつれて貼り付け位置を尻の方にずらします。そして体重 450 kg ぐらいの牛の場合には貼り付け位置は切欠きの丁度外になります。
4. 貼り付け位置が決定したら、その位置の汚れをもう一度払って、付属のチューブ入り接着剤をヘラに取って貼り付け位置に塗って下さい。
5. 接着剤は付属のヘラで尻の方に向けて毛の中に押し込むようによくのぼして塗って下さい。(図②参照)

6. カーマーヒートディテクターの裏面にも同じ接着剤を少量平均に塗ります。この際、カーマーヒートディテクターの表面にあるふくらみ(プラスチック製)

プラスチック製のふくらみで、牛が発情すると赤色に変わって発情を表示する部分) を押さないこと。このため黄色プラスチック製のアプリケーション (糊付け台) がセットに付属しております。カーマーヒートディテクターの矢印とアプリケーションの矢印を合せて、カーマーヒートディテクターのふくらみをアプリケーションの溝にそっと押し込んで下さい。(図③参照)

矢印を反対にして押し込んだり、力を入れて押し込むとふくらみの中の赤色染料チューブが破れてしまいます。

7. カーマーヒートディテクターを牛の背中に貼ります。(図④参照) 矢印は牛の首の方向に向けて貼ります。貼る際に、カーマーヒートディテクターのふくらみをつぶさないこと。
8. カーマーヒートディテクターを貼ったら、朝と晩に赤色に変わっていないか見て下さい。カーマーヒートディテクターが赤色に変わったら発情したわけです。種付けの準備をして下さい。

- (注意)
1. カーマーヒートディテクターがこすり取られないように、オイラーその他牛の背中がこすられるようなものを牧区から予め取り除いて置いて下さい。
  2. カーマーヒートディテクターを貼る位置は腰の高さや巾によっても多少変わります。体重を目安に貼る位置を決めたら、腰の高さが高い場合や腰の中がある場合には尻の方に少しずらして貼って下さい。
  3. カーマーヒートディテクターは出来るだけ涼しいところ、例えば冷蔵庫に入れて保存して下さい。
  4. 接着剤は冷えると接着力が弱まり或いは固まってしまうから、なるべく暖いところに保存して下さい。但し、引火性がありますから火気は厳禁です。
  5. 接着剤を口に入れないこと。保存中は必ず子供の手に届かぬところにしまって下さい。なお、接着剤はいつも通風の良い所で取り扱って下さい。